

2024_0409「ムササビの子ども 2匹（動画）」日々の理科 3533号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

ムササビの出産から約10日が経ち、子どもも少しずつムササビっぽい顔つきになってきました。ムササビは野生種のネズミ目（もく）の中では、日本最大です。妊娠期間は平均74日、授乳期間も最長166日と、この大きさの哺乳類としては非常に長いのが特徴です。ムササビは年に2回営巣・出産するので、場合によっては、先に生まれた子と半年後に生まれた子が、一つの巣に一匹の親と同居することもあるそうです。一方で、いわゆる巣立ちまで同じ巣の中で子が成長する割合は約3割、別の巣に引っ越す割合も約3割、ヘビ（アオダイショウ）やテンに補食される割合も約3割という観察記録もあります。（※「ムササビ（*Petaurista leucogenys*）メスの繁殖における時間的投資」／哺乳類科学/60巻（2020）1号／繁田 真由美, 繁田 祐輔, 田村 典子）

ムササビが一回の営巣で産む子は平均で1.3匹です。1匹のほうが多く、2匹は少し珍しいということです。生まれた時から比較的大型で、天敵の餌食になることが少ないからでしょう。今回は2匹なので、今後数か月間の成長の様子が楽しみです。巣立ちまで観察を継続できるかどうかはまだわかりません。

それでも心配なのは、営巣した巣箱で去年の春にフクロウが子育てをしていたことです。フクロウ（猛禽）もムササビの天敵の一つです。子育ての場所を探しに来たフクロウが、親が留守中のムササビの子を見つけて、そのまま食べてしまうことを恐れています。

（2024年4月上旬／北軽井沢／東京から遠隔観測）

